



飲酒運転の報道から

68 歳の男が飲酒運転していた自動車が起こした追突事故の巻き添えで 3 歳の子が命を落とすという報道が先日ありました。

幼くして命を絶たれたお子様やご家族の皆様のことを思うと、本事案を起こした被疑者に対する憤りを禁じ得ません。

飲酒運転は度々その危険性が訴えられ、飲酒運転根絶が謳われてきました。それでも同様の事故が後を絶ちません。

他者のことを自分に置き換えたり、自分の行動がどのような事態に結び付いていくのかを想像したりする思考ができないものかと思ってしまう。

また、68 歳という年齢に達しながら物事の分別がつかないということに情けなさも感じます。

このような事案が起こるたびに『教育』の重要性をひしひしと感じます。「だめなことはだめ」「しないといけないことはする」といった社会性を培う基本を疎かにして、「そのうちなんとかなるさ」「今まで大丈夫だから、この先も大丈夫」という甘さや軽さが将来的な重大事案に結びつくのではないかと思います。

私たちの今は、未来につながっています。どのような今を過ごすかで、未来が変わってきます。未来の自分は、今日の自分の先にしかいないことを考えて、一日一日を大事に過ごすことの必要性を思わざるを得ません。